

再見 森崎 東 監督作品「生きてるうちが花なのよ
死んだらそれまでよ党宣言」(1985)

——日本（国家－社会）の構成的解体を考える——

2011.4.24：「沖縄と東北が、そして、私・たちが一つに連なる声の蜂起へ」
に〈後〉註をつける

1.

- 1-1 「沖縄を踏みにじるな！緊急アクション実行委員会：辺野古に基地を押しつけるな！
新宿ど真ん中デモ——軍隊がTOMODACHI？お断りします——」
- 1-2 網野善彦他編「日本の社会史」第1巻「列島内外の交通と国家」(1987年)／岩波書店
——大石直正「東国・東北の自立と『日本国』」
笠井潔「偽史の想像力」(「黙示録的情熱と死」1994年／作品社所収)
- 1-3 「始まっている未来」——内橋克人「地域からの挑戦①」-「高知国独立宣言」(「共生経済が始まる」2009年／朝日新聞出版所収)

2.

- 2-1 D. グレーバー「脱構成的趨勢」(「資本主義後の世界のために」高祖岩三郎訳・構成
／2009年／以文社所収) / 友常勉「脱構成的叛乱」(2010年 東京外語大出版局
所収) / 日本(国家－社会)の構成的解体
- 2-2 再見！森崎東「生きてるうちが花なのよ 死んだらそれまでよ党宣言」

この映画は、すでに2008年の「憲法フェスタ」で上映したのだが、このたびの「沖縄と東北、そして、私・たちが一つに連なる声の蜂起へ」という企画にとって、不可欠なものという独断と偏見にたって、「再見」することにした。以下に示すのは、一昨年の「憲法フェスタ」に際してのチラシに、修正を加えたものである。

- 映画「生きてるうちが花なのよ 死んだらそれまでよ党宣言」(森崎東監督作品 85年)
——そこでは、この列島社会の(「原発」立地地域のような)「**周辺**」部で、あるいは(沖縄のような)「**周辺**」部から流れてきて、ほとんど生の「**限界**」にさらされて生きる(いわゆる「原発ジプシー」のような、あるいは、それを相手とする「娼婦」のような)者たちの闘いが、描かれる。

それは、言わず語らずのうちに互いに支え合いながら、必死に生きる者たちと、その営みから(警察とやくざとの癒着のように)グルになって、「**利ザヤ**」を奪う者たちとの(歴史の「**余白**」に遺棄されるシミのような)闘いである。——なお、「**周辺**」／「**限界**」／「**利ザヤ**」／「**余白**」、いずれも「**マージン(Margin)**」の多様な意味を示す日本語訳で

ある

- 「生きてるうちが花なのよ 死んだらそれまでよ党宣言」——それは、そのような闘いを生きる者たちの〈生成変化〉の、そして、言わず語らずに支え合う生き様の共同性の表現であり、その者たちの間で受け渡されていく「**アイちゃんですよォ ご飯食べたァ**」という呼びかけは、その「党」の「旗」である。

また、「**アフレルジョーネツ、ミナギルワカサ、キョードーイッチ ダンケツ、ファイ トーツ**」が、その「党」のメイン・シュプレヒコールである。

- 映画「生きてるうちが花なのよ 死んだらそれまでよ党宣言」——それは、この列島社会の底辺を生きる「流民」たちの一つに連なる情動の蜂起の軌跡を追いながら、それを見る者に、生きられた軌跡が表出する「生きてるうちが花なのよ 死んだらおしまいよ党宣言」に対応するあなたの「党宣言」は、あなたの「旗」は何であるのかを、問うている。

改めて付け加えるまでもなく、上でふれた「流民」たちの一つに連なる情動の蜂起の軌跡は、まさにいくつもの〈エクソダス〉群（沖縄コザからの／飼育装置としての中学校からの／被曝労働装置=原発からの／やくざ支配からの／この「日本」からの〈エクソダス〉）の集合の軌跡に、他ならない。現在この時点で、「沖縄と東北、そして、私・たちが一つに連なる声の蜂起へ」という発想が、さらには、それを「日本の構成的解体」としてつかもうとすることがさげけがたいのは、何よりも、この「驚天動地」が喚起する情動の〈生成変化〉がどのような表現をもつことできるかという〈問い〉とかかわっている。

なお、「マージン」の多様な意味については、高乗権「周辺化とマイナー化 国家の追放と大衆の逃走」（『現代思想』2007年6月）によっている。そのドゥルーズ／ガタリに由来する「周辺化とマイナー化」という発想は、「マイノリティとしての大衆は尺度から逃走する」ことこそが、世界の〈反転〉を生起させるものであるという認識に、立っている。この文章については、「ブックリスト：この驚天動地の〈反転〉を模索するための10の手がかり（〈エクソダス〉2011 リーフ No.2）でもふれている。——なお、森崎東とこの映画についての対談+シナリオなどは、「にっぽんの喜劇映画 PART2 森崎東篇」（映画書房／1984年）参照

エクソダス2011・富山 企画 part3

災害／資本主義考—その1

- 5月29日(日) 13:00~16:00
- サンフォルテ 305

生・労働・運動ネット

富山市神通町3-5-3

TEL 076-441-7843

FAX 076-444-6093